

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 28 年度 第 3 回弘前市社会教育委員会議
開 催 年 月 日	平成 29 年 2 月 22 日 (水)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後 1 時 35 分 から 午後 4 時 7 分まで
開 催 場 所	弘前市岩木庁舎 会議室 3
議 長 等 の 氏 名	委員長 生島 美和
出 席 者	生島 美和 委員長・ 村元 千鶴子 副委員長 松本 大 委員 ・ 阿部 精一 委員 高木 隆雄 委員 ・ 原子 修逸 委員 成田 むつ子 委員・ 安達 慶子 委員 平井 春道 委員
欠 席 者	佐藤 義光 委員
事 務 局 職 員 の 職 氏 の 名	生涯学習課長 戸沢 春次 生涯学習課総括主幹 村上 光義 弘前図書館兼郷土文学館長 伊藤 文彦 博物館長 佐々木 健一 中公公民館長 竹内 勇造 中央公民館岩木館長 三上 淳 中央公民館相馬館長 神 弘樹 中央公民館主幹 熊谷 克仁 生涯学習課生涯学習係長 高森 紀之
会 議 の 議 題	①平成 29 年度 社会教育関係主要事業について ②平成 29 年度 社会教育関係団体補助事業等について ③青森県地域の豊かな社会資源を活用した土曜学習推進事業について
会 議 結 果	・平成 29 年度の社会教育関係事業、補助事業等及び青森県地域の豊かな社会資源を活用した土曜学習事業について説明後、各事業について委員からの質問や意見を伺った。

<p>会議資料の名称</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 【事前配布資料】 ・平成 29 年度 社会教育関係主要事業 ・平成 29 年度 社会教育関係団体補助事業等一覧 ・青森県地域の豊かな社会資源を活用した土曜学習推進事業 ・弘前市立図書館等の指定管理者の決定について ・弘前市経営計画 関連事業一覧 ・廃止・縮小事業調書
<p>会議内容</p> <p>(発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)</p>	<p>○第 3 回社会教育委員会議</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 会議 4. 閉会 <p>~~~~~</p> <p>会議 (議長)</p> <p>平成 28 年度第 3 回弘前市社会教育委員会議を開会いたします。</p> <p>弘前市社会教育委員の会議運営規則の第 4 条に基づきまして、会議は在任委員の半数以上が出席しなければ開くことができないとなっております。本日は 9 名の出席になりますので定足数に達しており、会議は成立しています。</p> <p>議事録の署名委員は、高木委員と原子委員にお願いします。</p> <p>~~~~~</p> <p>案件①「平成 29 年度 社会教育関係主要事業」について (事務局から平成 29 年度社会教育関係主要事業について説明)</p> <p>(議長)</p> <p>説明をいただきましたが、個別のことでも、全体のことでもよろしいので、これにつきまして社会教育委員の方からの意見、質問等ありますか。</p> <p>(村元委員)</p> <p>放課後子ども教室について、教室を増やすことは認められたが予算はつかないということで、どのように対応するのですか。</p> <p>(生涯学習課長)</p> <p>昨年度からの変更点で、スタッフの謝礼金の単価があり、そこで支出金額が少なくなります。その上に「BiBi っとスペース」のスタッフの謝礼金を出すことで増える部分もありますが、全体的に調整を図りたいというのが一つです。また、実際に毎週「BiBi っとスペース」を開設して</p>

いても、中学生になると部活やスポーツ大会で忙しくなり、かなり人数が少なくなる日もあることから、例えば試験が近くなる辺りに開設するなど日数の調整を図り、予算の削減に対応したいと考えています。

(村元委員)

サポーターの報酬を下げるのではなく、日数を減らすことで調整するということですか。

(生涯学習課長)

コーディネーターと推進委員の単価は下がります。

教育委員会の中で同じコーディネーターが生涯学習課は 1,380 円で、学校づくり推進課が 1,000 円となっており調整がとれていなかったことから、1,000 円に統一したいという考え方で、該当になっている方々には申し訳ないのですが、下げさせていただくという話はしています。

(村元委員)

教育というのはお金がかかるものです。全体を見ると一律に 5%ずつ減らしているようですが、一律でいいのかというのも考えないといけないと思います。特にボランティア的な報酬には、もう一度メスを入れないといけないのではないか、それがなかったら良いものがないのではという印象です。

(議長)

学区まなびいで担い手が少なくなっているのも、やはりそれに連動してくるのではないかと思います。全部ボランティア化されていくということがすごく負担になってきていて、良いものが出来ていかないのだろうというところも検討していかなければいけないのではないかと思います。

他にいかがですか。

(松本委員)

平成 29 年度のコーディネーターの配置が 2 名となっていますが、2 名で事業費が減っているというのはどういう計算なのか。それはコーディネーターの人数は倍になったけれども、日数の調整で事業費としては少なくなったという理解でよろしいですか。

(生涯学習課長)

はい。

(松本委員)

コーディネーター 1 人当たりの謝礼は、今年度より減るということですか。

(生涯学習課長)

単価が下がりますので。

(村元委員)

そういうことが続くと、今は良いけれども次に続かないですね。後

継者が育たないわけですよ。そのことを十分に考えて欲しいと思います。

(議長)

子ども向けのものを一生懸命に提供しているようですが、生涯学習課としては、子どもを支えていく大人も学んでいかなければいけないので、そこでコーディネーターやサポーター、例えば、学区まなびいの担い手やその方々に対してやってもらうだけではなく、その方々の研修であるとかきちんと賃金を払ってそれなりの仕事をしていただく、もしくは企画を練っていく力を育てていくことで社会参加に繋げていくような、大きなダイナミクスということを考えていかないと、持続的ではなくただ事業をこなしていただくだけになります。そういうところを配慮して考えていくことが必要なのではないかと思うのですが。

(生涯学習課長)

これから各小・中学校でコミュニティスクールが徐々にできていく中で、その地域と学校とがどのように関わりを持っていくのかということがますます重要となってくると思います。学校と地域の協働システムをどのようにすればよいかということを、学校づくり推進課を中心に考えていますが、まだ固まっていない状況です。そこを固めていきながら学校ごとにどのようにしていけばよいかという検討は、これからになります。予算も、「教育委員会はこの位で何とかしてください」ということでシーリングをかけられているため、もしここを増やすとなるとどこかを減らさないといけないということもありますので、なかなかうまくいかないということを理解いただきながら、コミュニティスクールを見据えて進めていきたいということで考えています。

(成田委員)

たくさんの事業をされているのはわかります。現状と課題があり、目的や内容があって期待できる効果ということまで出していますが、平成 28 年度は期待できる効果がどうだったのかということがわからないので、毎年同じ項目だけができていれば何も進歩していないと思います。実際、課題に対して実施してみてもどうだったのか、そこから次の期待できる効果は何なのかというところまで考察すると、一緒に実施した方がよい事業や、ここは広げるがこっちはそのかわり大枠でこれだけと言われている事業もあると思うのです。本当に一つずつ実施してしまうと、現状と課題が同じ事業がたくさん出てきます。その中で何をメインに取り組もうとしているのかが見えていません。すべてやりますというようなことだと、担当される方もお願いされる方も難しいと思います。それだと限られた人数にしかお願いできないし、指導員やコーディネーターなどは限られた人数しかいないわけですよ。そういう中で割り振りされるよりは、一緒に実施するなどができないものか。期待できる効果が出ているのであれば、それに対して平成 28 年度はどうだったでしょうか。残された課

題に対して、解決するために何をするのかというところまでは読み取れませんでした。

(生涯学習課長)

同じような事業が続けられていると感じているところもありますが、経営計画は、そのプランをまず評価し、チェックしてどう改善していくのか、次年度はどのようにするのか、ということを考察しながら進めています。成田委員が言われるように、人づくりの分野は、その効果自体がすぐに評価できるものも一部ありますが、大半はすぐには評価ができず、なかなか難しいということもあります。しかし、継続していかなければいけない事業もたくさんあると考えています。なかには統合する方向で進めている事業もいくつかあります。もちろんこれから予算的に厳しくなると、そういうことも更に考えながらやって行かざるを得ませんので、委員が言われた視点を持ちながら進めていきたいと思います。

(議長)

この様式自体が経営計画と関連しているので、主要事業としてここで説明があったものも、経営計画からの関連みtainな形になっているわけです。これがすべてではないですし、この様式自体も計画に基づいているものです。教育の側からどういう人を育てていくか、そこに対してどんな人が育っていったかなどという検証がされたものにはなっていないことが、おそらく成田委員がじっくりこないとこではないかと思っています。だからといって形を変えることが独自にできるものではなく、その辺りは少し考慮しながら今後進めていただくということが必要ではないかと思っています。

一方、社会教育法で求められている社会教育委員会議の委員として、社会教育委員側から社会教育計画を出していくなど、そういうことを行っていくのもありえなくはないのではないかと思います。まず、その辺りのことを実務的に行っていく中で進めていただければということでしょうか。

(生涯学習課長)

ご意見として伺っておきます。

(安達委員)

演劇ワークショップ事業の現状と課題で、演劇部のある学校が減っていき、子どもたちの表現する場が減っているので確保が急務ということですが、ワークショップというのは年に1回だけで、この実施自体はもちろん大事ですが、平成26年度から見ても参加人数がどんどん減っている一方です。プロの方から生徒や顧問や教諭が演劇を学ぶ機会というのは達成していると思います。演劇部のないところの子どもたちが、演劇部のある学校等に日ごろから行って活動できるしくみなどを作ることも合わせてやった方がより効果的なのではないかと思っています。

(生涯学習課長)

演劇部が無くなることには、こちらの方も歯止めをかける方法が見つからない状況です。今、安達委員が言われたように、演劇部が無くても他の場所へ行き、活動できるシステムはやれるのではないかとは思っています。実際、ワークショップも必ず演劇に入っていないといけないわけではなく、希望があれば参加できるということでやっていますので、演劇部にこだわったものではありません。しかし、その裾野をどうやって広げるかが難しく、なかなか方法も見つからないため、模索しているような状況です。

(議長)

それぞれの事業の繋がりというか、連携ができないのかと思っています。例えば、全体の発表会を中学生や小学生に向けていくことで、演劇の鑑賞を高めていくことや、児童観劇教室があるので、この前座を中学生がやるような、そういうかたちで裾野を広げていくなど、事業間の連携をさせていくことももっと実務レベルで考えていくことが、こなすことではなく、その事業の成果で人をつくっていくというところに繋がっていくのではないかと思います。

また、コミュニティスクールで学校づくり推進課の動きを待っているだけではなく、むしろ放課後子ども教室の方を母体にしたり、そのメンバーを組み入れながら、生涯学習課でここまでやってきたので、これをコミュニティスクールの中に入れ込んでいくようなことであるとか。

他のところでは、例えば、ひろさき教育創生市民会議で話題になりましたが、ネット・携帯に関して、ただ子どもにルールを作らせるだけではなく、親がきちんと理解していないといけないので、例えばPTAの中で、そういう学びの場を作っていくことの方が必要なのではないかと思います。ということも発言をしました。

そのような一つの教育を良くしていくことに関しては、全体で考えなければいけないのであって、生涯学習課だけの問題として見ているのであれば、狭いのではないかと思います。その辺も型を埋めていかなければいけないところだとも思っていますが、実務として視野を広く持っていたらいいのかと思って伺っていました。

(松本委員)

いろいろな事業が展開されているということによろしいかと思いません。放課後子ども教室のコーディネーターの方、あるいは子ども会関係の方など、様々な方が関わっているかと思いますが、社会教育関係職員等研修事業で、色々な現場で関わっている方のパワーアップの機会を幅広く提供した方がよいのかと思いました。研修事業に含まれているのかもしれませんが、対象を職員に限定するのではなく、広くスタッフとして関わっていく方であるとか、子ども会など様々なかたちで実際に社会

教育に携わっている方々の学びを支援するような事業をその中に含めてもいいのではないかと思います。マンネリ化していることや利用者が減っているなどの課題が恐らくあるだろうと思います。学区まなびい講座が崩壊しかけていることが課題だと思いますが、限られた予算でどう実施していくのかと考えた時に、もしかしたら学区まなびい講座の事業は県の補助金がもらえるのではないかと思います、学校と地域の協働ということで土曜学習などに補助金があるはずで、その辺りも検討すると、その分、他の事業等に予算を回せるのではと思います。

(生涯学習課長)

最初に研修事業ですが、記載されているのは社会教育関係職員等ということで、主に生涯学習課と中央公民館 3 館と地区公民館 12 館の職員を対象としています。それとは別に、放課後子ども教室の関係者の研修会は、市教育委員会で 3 月 7 日に関係者を集め、事業内容やこれからの事業をどうするのかという話し合いの場を持つなど、事業ごとに行っているものもあります。また県、中南教育事務所でも事業ごとの研修は、それぞれに実施していますので、そちらを利用して補っていきたいと思っております。できれば独自に実施できるとよいのですが、予算の関係もありますので、現状としてはそのようなかたちで対応しています。

(中央公民館長)

学区まなびい講座の予算は、必ずしも苦しいということではないのですが、助言いただきましたので、県の事業も調べてみたいと思います。

(議長)

今年から新しく委員になられた方は、「学区まなびい講座」のシステムをもしかしたらまだ認識いただいていないかもしれませんので説明しますが、昭和の大合併まで旧弘前市だった地区に地区公民館はありません。地区公民館がない小学校区が 11 あり、学区ごとに地域の方々が主体となり、学校を拠点にしながら社会教育活動を企画し、実施していくというシステムとなっていて、中央公民館の職員がサポートしながら住民主体の社会教育活動を進めています。「学区まなびい講座」の課題は、おそらく事業がたくさんあり住民が忙しすぎて崩壊してしまうというようなものではないかと思います。今週、担当者会議がありますので、その中での報告も聞いていただくと、課題が見えてくるのではないかと思います。

~~~~~

**案件②「平成 29 年度 社会教育関係団体補助事業等」について**

(事務局から平成 29 年度社会教育関係団体補助事業等について説明)

**(議長)**

この件に関して、委員の皆様から意見や質問等がありましたらお願いします。

**(村元委員)**

二十歳の祭典の共催負担金も、一律 5%減の 85 万円になっていますが、関連事業の 7 ページの二十歳の祭典を見ると、前年度よりも事業費が上がっているのはなぜでしょうか。

**(生涯学習課長)**

7 ページに記載している、平成 28 年度の 261 万 7 千円は決算額で、平成 28 年度の予算額は全体で 289 万 3 千円ですので、その予算で見ると平成 29 年度は少なくなっています。

事業実施により、いろいろな経費が削減されることで、見込み額は 261 万 7 千円となっていますが、予算としては減っているということです。

**(村元委員)**

総括してみると一律 5%減ということで、5%減の根拠は何ですか。

**(生涯学習課長)**

平成 29 年度の予算編成で、補助金は 5%削減を目指してくださいという市の方針がありましたので、生涯学習課として、補助金については一律 5%減としています。課や部によっては、予算のやりくりをして 5%削減していないところもあります。そういう意味では一律ではないということになりますが、生涯学習課としましては市の方針に沿って行っていますので、5%減になっています。

**(村元委員)**

一律ということが、査定ということにならないのではないかという印象がありますが。

**(生涯学習課長)**

シーリングという枠が決まっているものは自主的に下げているので、財政担当では査定はほぼしません。シーリング対象外という事業があり、例えば「放課後子ども教室」もシーリング対象外の事業ですが、生涯学習課で必要経費の増額の予算要求をしましたが、結果的に現状を維持して下さいという査定を受けたこととなります。事業によっては、査定を受けるものと受けないものがあるということでご理解をいただけたらと思います。

**(議長)**

他にいかがですか。よろしいですか。それぞれの事業を充実化させていただいて、また、その事業にどのような成果があったのかということをして 1 年後に聞くことができるようにしたいと思っています。

~~~~~

案件③「青森県地域の豊かな社会資源を活用した土曜学習推進事業」について

(事務局から青森県地域の豊かな社会資源を活用した土曜学習推進事

業について説明)

(議長)

この事業に関しては、社会教育委員が運営委員となっていることから、この会議の中で事業の進め方や内容について意見をしていく立場にあります。

今の説明は、平成 28 年度の事業報告、成果報告したが、平成 29 年度はこれよりも増えるということで、そのことについても意見・質問等を出していただければと思います。

所管は中央公民館でよろしいですね。

先に私から質問しますが、ウィークエンド子どもクラブは各地区で実施していたのですか。

(生涯学習課長)

ウィークエンド子どもクラブは地区ではなく、全市内を対象に、活動場所として学習センター、克雪トレーニングセンター、弘前公園のテニス場などで実施しています。

(議長)

それについての資料がないため全体像が見えないのですが、次の会議で提示いただくということですか。

(中央公民館主幹)

基本的には、現在それぞれで所管していた実施方法を引き継いでいます。これまでのウィークエンド子どもクラブの実施・運営にあたっては、協力してくださるクラブが独自で行っていますので、中央公民館の子どもクラブのように、職員が最初から最後までついて学習の補助をするという形ではないです。

平成 29 年度の形としては、潜在的な子どもの活動を支援することを、自分たちの活性化や子どもたちと一緒に行っていきたいというところを掘り起こして、子どもクラブという事業を続けていきたいと考えています。最終的にはそういう形に移っていくのだろうと考えています。

(議長)

中央公民館の子どもクラブが中核になりながら、事業主体ではなく、ネットワークを作っていくと考えるとよいということですね。

もう 1 点伺いますが、子どもたちの学校の分布を見ていると、子どもの数もあるかと思いますが、送り迎えの問題などがあり、来られる場所が限られてくるのかと思います。例えば、岩木・相馬であるとか周辺部の子どもたちの姿というのは、それほど見えない感じがあります。もちろん、子どもの数が少ないからというものもあるかと思いますが、そういうものに対しての対策、機会の充実化というのは何かありますか。

(中央公民館主幹)

現在、弘前市内に 1 万人ほどの子どもたちがいますが、全員が子ども

クラブに来られても困るということもありますし、ではどのくらい制限するのかという話にもなります。今現在は参加したい子どもだけが集まっている状況です。言い方は悪いですが、参加したくない子どもたちは、手も上げない、申し込みもしないという状況です。だからといって相馬や岩木という話ではなく、中央公民館としては全てに門戸を開いていて、そこは家庭で判断してほしいというのが正直なところです。

関連するかどうかは分かりませんが、今年の取り組みとして夏休みに子どもたちの居場所を与えようと考えています。どういう事業ができるかまだ分かりませんが、悩んだときは原点にということもありまして、公民館施設を地域に貸し出すというのも仕事かと思えます。公民館事業として、ネプタ期間中になるかと思いますが、クールシェアではありませんが、午前中に大会議室などを全て、子どもたちだけではなく来たい人誰にでも開放することを考えています。勉強するなら勉強する、ゲームをするならゲームをする、好きなことをして居場所をつくってもらい、潜在的な利用者を掘り起こして、そこから職員も何かを学びたいと考えています。子どもたちが何かして欲しいという時には、周りにいる大人に相談するなど、その子どもたちとのやり取りもあるかと思えますので、そういう取組を試験的にやってみたいと思っています。

(議長)

学校の先生やお母さん方の立場からでも、ご意見をいただければと思います。

(原子委員)

中学校として、中学生の参加がほとんど無いというのは寂しいなと感じています。それが現実なのかというところも無いわけではないのですが。

私も小学生の頃、子ども会などに参加することによって、先輩方とのいろいろなやり取りで繋がりができました。例えばネプタなどですが、中学生の頃からでも入って行って、いくらリーダー的なことをさせてもらいながら、地域の中で生きていました。今でもそういうことはあります。中学生になると部活動などで定期的に参加するのは非常に難しいと思うものの、このように参加している子どもたちは小学生であれば中学生になるわけですね。その時に繋がっていかないものかなと思います。少し残念です。やはり中学校生活のウェイトが大きくてなかなか難しいと思うものの、そういうような繋がりも考えていくことも必要なのかなと思います。

それから、このようなことを実施していることが、なかなか私たちの目に触れないということもあるため、広報の仕方というの、どうなのかというところです。あと、附属の子どもが多くて、少し違和感があります。

(議長)

これが起点になり、ジュニアリーダーやシニアリーダーに繋がっていくと、またそれが人材育成になっていくとも思います。

(高木委員)

自分の学校のことを考えてみると、何でいろいろな所に行けないのかを考えると、「足」だと思います。現在、バス代は倍になっていますので、そういう点で一番補助してほしいのは、交通費だと思っています。親御さんが興味のある子どもに関しては、親御さんの送り迎えがうまくできていて参加しているが、そうでない子どもたちのことを考えていかないといけないと常に考えています。学校でも随分言っているつもりですが、なかなかうまくいかなくて、そういう点ではジレンマがあります。何かしら、循環バスなどもできないものかなと思っています。

(議長)

ぜひ検討をいただいて、全部が中央公民館起点ではなく、場所を変えながらやっていくことなども考えていただければと思います。

(高木委員)

募集は最初だけですか。

例えば、一人だけ参加していて、「面白いよ。お友達を誘って行かない」という状態を作れないものかと思い、途中で募集をかけたると面白いと思います。

(生涯学習課長)

ウィークエンド子どもクラブは、今までは募集してそれでも定員に空きがあるようであれば、または講師の先生方にまだ対応の余地があるということであれば了解を得て、途中募集しています。

(議長)

随時そのようになっていくということや、また、固定のメンバーでグループワークなどをしていくことでの達成感や繋がりなどということもあるので、事業の中身の膨らませ方にも合わせていかれるのかと思います。

(松本委員)

3つ参加している人が2人、2つ参加している人も、8人以上います。そういう人に、どうして複数参加しているのか理由を聞いてみると、参加が増えることに繋がっていくのではないかと思います。

(議長)

多くなると抽選になるのですよね。

(中央公民館主幹)

基本的には抽選ですが、ここ10年ほどは、抽選は行っていません。天文クラブも大幅に人数が増えています。講師の了解をいただいて、できるだけ抽選をしない形で進めています。

(議長)

そうすると、だいたい希望すると通るということですので、毎週、公民館か公民館講座に通っている子どももいるということですね。なぜ惹きつけられているのかというヒアリングをしてみると、という話もありましたので、参考にしていただければと思います。

(安達委員)

「足」という点なのですが、バスだとどうしてもお金がかかると思うので、参加している子どものお母さんなどに、「もしよろしければ、他の子と一緒に近くまで乗せて行ってもらえませんか」などとお願ひする形にすると、1人でも遠い小学校などの子どもが参加していると、あと1人か2人くらいは同じ学校から参加できるのではないかと思います。

(議長)

「足」の問題というのは、それが子どもたちの学習機会に繋がってくると思ひますし、その辺りが私たちの一番気になるところだと思うので、来年度の事業に検討いただければと思います。

(村元委員)

これは広報ひろさきで募集するのですか。学校を通してですか。

(中央公民館主幹)

学校でも対象の子どもたち1人1人に渡しています。ほかに広報や新聞、アップルウェブなどを活用しています。

(村元委員)

学校の取り上げ方もあると思うので、そういう環境や雰囲気づくりなどの演出も必要だと思います。

(高木委員)

実際、春はものすごく多くのチラシやプリントなどが一斉にくる時期です。その中から選択して見ることになると思うので、若干、見落としというのはあるかと思ひます。本当にたくさんの量が毎日のように配られていくのが4月の状況です。それを一つひとつ整理して話をするということはなかなか出来ない状況にあるのが現状です。

(議長)

その辺りを学校とうまく連携等をしていただきながら、「足」の件も学校との調整もあり得るのかと思ひますので、検討いただければと思います。

~~~~~

**その他**

**・弘前市立図書館等の指定管理者の決定について**

(説明)

(質疑応答)

~~~~~

	<p>(議長)</p> <p>本日の議事については、これで終了とさせていただきます。 ありがとうございました。</p> <p>(生涯学習課総括主幹)</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>これをもちまして、平成 28 年度第 3 回弘前市社会教育委員会議を閉会いたします。</p> <p>本日は大変お疲れ様でした。</p>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議は公開 ・傍聴者なし